

学習評価 FIRST STEP ―中学校音楽科―

1 学習評価は何のため？

学習評価の目的は、生徒の資質・能力を育成することです。
生徒の学習状況を適切に見取り、生徒の学習改善や教師の指導改善に生かすことが大切です。



2 学習評価の機能

○指導に生かす評価

生徒一人一人の学習状況を把握し、生徒の学習改善や教師の指導改善につなげるための評価のこと
※生徒の学習改善や教師の指導改善のために、日々の授業の中で生徒の学習状況を絶えず評価することが大切です。毎時間生徒の学習状況を見取り、**指導に生かす評価**を行います。

○記録に残す評価

観点別学習状況の評価を総括する際の資料となるよう、学習状況を記録する評価のこと
※毎回の授業において、**記録に残す評価**を行う必要はありません。生徒全員の評価を記録に残す場面を精選することが重要です。題材のまとまりの中で、評価規準に照らして、生徒の観点別学習状況を把握し、記録します。

3 学習評価の観点

育成を目指す資質・能力の三つの柱を踏まえ、以下の3つの観点で評価を行います。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。*1 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。*2	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの動きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。	音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

※ 「知識・技能」の観定の趣旨は、知識の習得に関すること*1と技能の習得に関すること*2に分けて示しています。「A 表現」の題材では、評価規準の作成においても「知識」と「技能」に分けて設定することを原則とします。
なお、「B 鑑賞」の題材では、*2の趣旨に対応する評価規準は設定しません。

4 学習評価の進め方

題材における観点別学習状況の評価の進め方について、基本的な流れを以下に示します。

題材の目標の設定	・学習指導要領の目標や内容、学習指導要領解説等を踏まえて作成します。 ・生徒の実態、前題材までの学習状況等を踏まえて作成します。
題材の評価規準の作成	・題材の評価の基本構造と評価規準の作成のポイントを参考にして、題材の評価規準を作成します。
指導と評価の計画の作成	・評価する場面、評価方法を計画します。 ・「おおむね満足できる」状況（B）と判断する基準や「努力を要する」状況（C）となりそうな生徒への手立て等について考えます。
授業・評価	・授業を行い、観点別学習状況の評価を行います。 ・生徒の学習の実現状況を見取り、評価結果を生徒の学習の改善や、教師の指導の改善に生かすようにします。
観点別学習状況の評価の総括	・題材における観点ごとの総括や学期や年間を見通した観点ごとの総括を行います。
観点別学習状況の評価の評定への総括	・観点別学習状況の評価の評定への総括は、各観点の評価結果をA、B、Cの組合せ、又は、A、B、Cを数値で表したものに基いて行います。

参考：佐賀県教育センターWeb「学習評価の進め方」



学習評価の詳細については、国立教育政策研究所『**指導と評価の一体化**』のための**学習評価に関する参考資料**」や佐賀県教育センターWeb「**学習評価の進め方**」を御参照ください。

学習評価の進め方の具体

第2学年『夏の思い出』の曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫して歌おう（A表現(1)歌唱）を例に

題材の目標の設定

- (1) 「夏の思い出」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で「夏の思い出」を歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付ける。
(2) 「夏の思い出」の旋律、強弱、形式を知覚し、それらの動きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、「夏の思い出」にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。
(3) 「夏の思い出」の歌詞が表す情景や心情及び曲の表情や味わいに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組むとともに、我が国で長く歌われている歌曲に親しむ。

題材の評価規準の作成

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 「夏の思い出」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景*3との関わりについて理解している。 技 創意工夫を生かした表現で「夏の思い出」を歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。	思 「夏の思い出」の旋律、強弱、形式*4を知覚し、それらの動きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、「夏の思い出」にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。	主 「夏の思い出」の歌詞が表す情景や心情及び曲の表情や味わいに関心をもち*5、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。

*3：事項に示している内容のうち、本題材の学習で扱わない部分については削除することができます。
*4：「音楽を形づくっている要素」の中から、本題材の学習において生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素を適切に選択して記載します。
*5：文頭に、本題材の学習に粘り強く取り組んだり、自らの学習を調整しようとする意思をもったりできるようにするために必要な、扱う教材曲や曲種等の特徴、学習内容など、生徒に興味・関心をもたせたい事柄を記載します。

指導と評価の計画の作成

時	◆学習のねらい ○学習内容 ・学習活動	評価			評価方法	♪評価する際のポイントと留意点♪
		知技	思	態		
1	◆「夏の思い出」の歌詞が表す情景や心情、曲の背景に関心をもち、旋律、強弱、形式などの特徴を捉えながら、曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを理解する。 ○「夏の思い出」の曲想と音楽の構造との関わりに関心をもち。 ・「夏の思い出」の演奏（歌詞なし）を聴いて、印象や表現されている情景などをイメージする。 ・イメージしたことについて、「夏の思い出」の音楽のどのような特徴からなのかを自由に話し合う。 ○本題材の見通しをもつ。 ・本題材では、「夏の思い出」にふさわしい歌唱表現を創意工夫して歌うことを知る。 ○「夏の思い出」の歌詞の内容や曲想に関心をもち、音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの動きが生み出す特質や雰囲気を感じ取る。 ・「夏の思い出」の歌詞を音読したり歌唱したりして、歌詞が表す情景や心情、曲の雰囲気などをワークシートに書く。 ・ワークシートに書いたことを基にして意見交流を行い、新たに気付いたことや感じたことなどを書き加える。 ○「夏の思い出」について知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲想と音楽の構造や歌詞の内容とを関わらせて歌う。 ・ワークシートに書いたことを基に、「夏の思い出」の旋律、強弱、形式の特徴に着目して、曲想との関わりについてグループで話し合い、学級で共有する。 ・曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを意識しながら、全員で「夏の思い出」を歌う。 ○本時の振り返りをする。 ・ワークシートに振り返りを書く。				観察、ワークシート	授業中では、適宜 指導に生かす評価 を行います。特に「努力を要する」状況（C）と判断されそうな生徒を把握し、適切な指導や助言を行います。 記録に残す評価 を行う場面では、限りなく全員の生徒を少なくとも「おおむね満足できる」状況（B）以上であると評価できるようにすることが大切です。 【 記録に残す評価 】を行う場面での評価規準は、1単位時間に平均0～2つ程度を設定し、無理なく計画的に行うことが大切です。
2	◆「夏の思い出」にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図をもつとともに、創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けて歌う。 ○前時の学習を振り返る。 ・前時に学習したことを基に、全員で「夏の思い出」を歌う。 ○「夏の思い出」にふさわしい歌唱表現を創意工夫して歌うために、どのように表すかについて思いや意図をもつ。 ・「夏の思い出」の3、4段目を中心に、旋律（音のつながり方、フレーズ）、強弱、形式などの特徴を生かして、どのように歌うかについて考え、ワークシートに書く。 ・ワークシートに書いたことを基に、グループや学級で意見交流を行い、「夏の思い出」にふさわしい歌唱表現を追求する。 ○「夏の思い出」にふさわしい歌唱表現を創意工夫して歌う。 ・思いや意図と、発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能との関係を意識しながら、グループや学級で歌う。 ○本題材の振り返りをする。 ・ワークシートに本題材の振り返りと、「夏の思い出」のよさや我が国で長く歌われている歌曲についての考えをまとめる。				観察、演奏（歌唱）、ワークシート	観点ごとの学習状況についての評価は、題材における内容や時間のまとまりを見通しながら、それぞれの実現状況を把握できる段階で行うなどして評価場面を精選し、適時・適切な場面で評価を行うことが大切です。 生徒の発言や反応、ワークシートの記述内容の分析、行動の観察、演奏の聴取など、多様な評価方法を工夫することが必要であり、テストの結果に偏ることがないように留意します。

